

第1回徳島県公立高等学校の在り方検討会議入試制度部会の概要について

1 日 時 令和7年8月21日（木） 午前10時から正午まで

2 場 所 徳島県庁 9階 教育委員室（徳島市万代町1丁目1番地）

3 出席者

- (1) 委員 8名中7名出席（欠席1名）
- (2) 県 副教育長、教育次長、教育創生課長 ほか

4 議 題

- (1) 会長・副会長の選出について（会長：金西計英委員、副会長：竹内敏委員）
- (2) 本県公立高等学校入学者選抜の現状について
- (3) 本県公立高等学校入学者選抜制度の改善について
- (4) その他

5 意見交換における主な発言概要

【受検機会に關すること】

- 現行は「育成型選抜・一般選抜・第2次募集選抜」の3回実施で、年明けから3月末までの高校における在校生への教育の質・量の確保や、中学校における進路指導の準備期間から、単純な回数増は困難。
- 通学区域制に関する有識者会議からの「複数回受検」の提言の趣旨は、学区撤廃で選択が広がる中、一般選抜における特定の高校への志願集中による不合格時に再挑戦できる機会の担保である。回数が多い少ないという単純比較ではなく、回数よりも生徒が学びたい高校へ出願できる方式（単願・併願、デジタル併願制など）や複数校選抜の枠組みを含めた検討が必要。
- 学区撤廃により、志願者の動向が大きく変わることも予想されることから、一般選抜に加え、第2次募集選抜についても検討が必要。

【多様な能力を評価する選抜方法に關すること】

- 現行の育成型選抜は「運動部中心」に偏っており、特定の能力をもつ生徒にしか受検機会がないため、中高接続の観点からもより多様な能力を評価でき、より多くの生徒がチャレンジできる仕組みづくりが必要。
- スクール・ポリシーは生徒の高校選択や育成型選抜の募集要件等に直結する重要な方針だが、中学生・保護者には依然としてわかりにくいため、一層の明確化が必要。

【生徒の多様な受け入れに關すること】

- 調査書に記載すべき項目は、教育機会確保の観点から不登校等を理由に受検生が不利にならないよう、真に必要な事項に精選し、公平で実効的な内容となるよう慎重に検討するべき。
- 保護者や生徒のニーズが多様化する中、学校側の受け入れ体制としては、部活動の専門的な指導を行える人材が不足しているなどで、十分対応し切れているとはいえない。

【入学者選抜全般に係る負担に關すること】

- 中学校、高校ともに1月から3月は入試業務と在校生への指導が並行し負担が大きいため、教育の質・量の確保及び業務の効率化・簡素化に向けて、Web出願等の導入の検討が必要。
- 第2次募集選抜における作問等の負担軽減策を検討するべき。

【その他】

- 県内どこに住む中学生でも、学校情報・体験入学等に同等にアクセスできる機会の公平性の確保が必要。
- 志望校決定には学習内容だけでなく、施設・環境も強く影響するため、校舎整備などハード面の充実を図り、施設格差の是正が望まれる。
- 急速な社会の変化の中、目の前の課題だけを穴埋めするような改革ではなく、5年後、10年後の教育の在り方を見据えた入試制度改革であるべき。